



2024年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年1月31日

上場会社名 株式会社 バッファロー

上場取引所 東

コード番号 3352 URL <https://www.buffalo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 坂本 裕二

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 管理本部長 (氏名) 日下部 直喜

TEL 048-227-8860

四半期報告書提出予定日 2024年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	8,485	3.3	354	12.2	394	9.8	246	11.2
2023年3月期第3四半期	8,215	9.1	404	38.8	437	7.4	277	0.9

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 246百万円 (11.2%) 2023年3月期第3四半期 277百万円 (0.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	105.23	
2023年3月期第3四半期	121.76	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	8,544	6,125	71.7
2023年3月期	8,237	5,996	72.8

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 6,125百万円 2023年3月期 5,996百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		20.00		25.00	45.00
2024年3月期		25.00			
2024年3月期(予想)				25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,156	3.3	578	10.0	610	8.0	400	23.0	170.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	2,345,874 株	2023年3月期	2,345,874 株
期末自己株式数	2024年3月期3Q	2,444 株	2023年3月期	2,444 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	2,343,430 株	2023年3月期3Q	2,281,204 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が2023年5月より感染症法2類から5類へ移行し、経済活動の平常化が進むとともに緩やかな回復基調で推移しました。その一方で、ロシア・ウクライナ情勢の長期化と円安の進行により原材料価格・エネルギー価格の高止まりが続き、物価の上昇が国内消費に及ぼす影響への懸念から経済の先行きは不透明感を増しております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、「アフターコロナ」における新たな社会的ニーズの変化に対応すべく業容改革を推し進め、生活インフラである車関連事業及び外食事業を通じ地域社会に寄与すべく営業活動を行ってまいりました。

当社グループのセグメントごとの業績は、次のとおりであります。

<オートボックス事業>

当第3四半期連結会計期間末におけるオートボックス事業の店舗数は、15店舗であります。当第3四半期連結累計期間中における店舗の新設及び廃止はございません。

オートボックス事業が属する国内カー用品市場の環境につきましては、自動車メーカー各社の減産の要因となっていた半導体の供給不足解消に伴い、国内新車販売台数は前年を上回る状況が続いております。また、ゴールデンウィーク・お盆帰省等の外出需要もコロナ禍前の水準まで回復し、オイル・バッテリーを中心に消耗品の販売が好調に推移しました。その一方で、年末商戦期において全国的に温暖な気候となった影響から、冬タイヤ・タイヤチェーン等の冬季商品の販売が減少することとなりました。

このような環境の中で当社グループは、「クルマのことならオートボックス」の実践を通じた地域ナンバーワンの店づくりを目指し、顧客満足度向上のための接客・接客力の強化、技術力を備えた専門スタッフの育成に取り組んでおります。また、快適で鮮度が高い魅力的な売場による集客力の向上を図るべく、2023年5月にスーパーオートボックス環七王子神谷の店内全面改装を行い、より利便性の高い、回遊性に優れた売場へのレイアウト変更、及びウェイティングルームをリニューアルするなど既存店リノベーションへの取組みを推進いたしました。販売施策といたしましては、中期的な重点分野と位置付けるボディコーティングやヘッドライトコーティングメニュー等、車の美観向上に関するピットサービスメニューの業容拡大のため、施工設備の導入・技術スタッフの育成に注力し、順調に売上を伸ばしております。タイヤ販売につきましては、原価高騰に伴い販売価格が上昇する中、低価格帯商品を充実させた売場づくりによる販売数量の確保に努めてまいりましたが、暖冬の影響による冬タイヤの需要低迷により、前年同期を下回る販売実績となりました。一方、オイル・バッテリー部門につきましては、前連結会計年度にてWeb予約システムによるオイル交換の即日作業予約を可能とし、作業レーンを拡大する等、ピットでの受け入れ体制を強化したことにより、オイル・バッテリーとも売上が増加しております。車販売部門につきましては、オークション市場における販売台数が順調に伸長したことで増収となりました。

これらの取組みにより、オートボックス事業の売上高は7,991,291千円（前年同期比3.9%増）となりました。

<飲食事業>

当社グループは、2019年7月に設立した子会社「株式会社バップアローフードサービス」において、焼肉ライクがチェーン展開する『焼肉ライク』のフランチャイジーとして飲食事業を運営しております。当第3四半期連結会計期間末における飲食事業の店舗数は、2023年10月に「焼肉ライク 吉祥寺南口店」を閉店したことにより、前連結会計年度末から1店舗減少し7店舗となっております。

『焼肉ライク』は、「Tasty! Quick! Value!」をキャッチフレーズに、1人1台の無煙ロースターを導入し、お客様が好きな部位を好きなだけ楽しむことができる、個人客をメインターゲットにした新感覚の“焼肉ファストフード店”であります。

飲食事業が属する外食業界は、「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」への転換を経て、インバウンド需要等を取り込みつつ景況は改善傾向にあるものの、食材・エネルギー・物流・人件費等の価格上昇が逆風となっており、またコロナ禍による消費者のライフスタイルの変化や人手不足等を要因に売上の回復状況は業態や地域ごとに差が生じる状況となっております。

当社グループといたしましては、お客様・取引先様・従業員の安全と健康に引き続き配慮をしつつ、周辺地域への認知度向上とサービス充実を努めてまいりました。販売施策といたしましては、焼肉ライク本部主導のもと、黒毛和牛をベースにした期間限定メニューの提供や「毎月9のつく日は焼肉ライ9（ク）の日」としたキャンペーンの実施等、新たな客層の開拓と収益の拡充を図っております。

これらの取組みの一方で店舗数が減少した影響等により、飲食事業の売上高は494,297千円（前年同期比5.3%減）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高8,485,588千円（前年同期比3.3%増）、営業利益354,801千円（同12.2%減）、経常利益394,876千円（同9.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益246,605千円（同11.2%減）となりました。

セグメント別の売上高は次のとおりであります。

セグメント	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
	(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)
オートボックス事業	7,693,565	93.6	7,991,291	94.2	10,099,560	93.6
飲食事業	521,901	6.4	494,297	5.8	696,076	6.4
合計	8,215,467	100.0	8,485,588	100.0	10,795,636	100.0

各品目別の売上高及び構成比は次のとおりであります。

品目	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
	(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)
ピット・サービス工賃	2,329,884	28.4	2,491,429	29.4	3,090,619	28.6
タイヤ・ホイール	2,081,621	25.3	2,058,049	24.3	2,632,953	24.4
アクセサリ・メンテナンス用品	1,269,513	15.5	1,291,508	15.2	1,669,367	15.5
オイル・バッテリー	667,710	8.1	774,199	9.1	896,226	8.3
カーエレクトロニクス	707,007	8.6	700,802	8.3	906,685	8.4
車販売	584,943	7.1	626,698	7.4	828,025	7.7
飲食	521,901	6.4	494,297	5.8	696,076	6.4
その他	52,883	0.6	48,603	0.6	75,682	0.7
合計	8,215,467	100.0	8,485,588	100.0	10,795,636	100.0

(注) 1. 「飲食」につきましては、2022年4月に「焼肉ライク ekie広島店」・「焼肉ライク 南池袋店」、2022年10月に「焼肉ライク 川口駅東口店」を開設し、第1四半期連結会計期間より通期での営業を行っております。また、2023年10月に「焼肉ライク 吉祥寺南口店」を閉店したことにより、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は前連結会計年度末から1店舗減少し7店舗となっております。

2. 各品目の主な内容は、次のとおりであります。

品目	主な内容
ピット・サービス工賃	オイル交換、タイヤ交換、各種用品取付、板金・塗装、車検・整備、ボディコーティング、ヘッドライトコーティング、車内クリーニング
タイヤ・ホイール	夏用タイヤ、冬用タイヤ、アルミ・スチールホイール
アクセサリ・メンテナンス用品	チャイルドシート、キャリア、チェーン、車内アクセサリ、ドレスアップ用品（ステアリング、シート、ランプ等）、チューンナップ用品（エアロパーツ、マフラー、サスペンション等）、省燃費用品等
オイル・バッテリー	国産・輸入エンジンオイル、国産車用・外車用バッテリー
カーエレクトロニクス	カーナビゲーション、カーTV、ドライブレコーダー、DVD・CD・MDプレーヤー、スピーカー、アンプ、接続具等
車販売	新車及び中古自動車
飲食	店舗における飲食サービス

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は5,420,111千円となり、前連結会計年度末に比べ346,488千円（前連結会計年度末比6.8%）増加しました。これは主に現金及び預金366,600千円の減少に対して、売掛金449,885千円及び商品303,056千円の増加があったためであります。固定資産は3,124,065千円となり、前連結会計年度末に比べ39,972千円（同1.3%）減少しました。これは主に有形固定資産の増加26,840千円に対して差入保証金39,113千円が減少したことによるものであります。

この結果、総資産は8,544,176千円となり、前連結会計年度末に比べ306,516千円（同3.7%）増加しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,546,913千円となり、前連結会計年度末に比べ139,087千円（前連結会計年度末比9.9%）増加しました。これは主に未払法人税等115,066千円及び賞与引当金78,810千円の減少に対し、買掛金が307,487千円増加したことによるものであります。固定負債は871,480千円となり、前連結会計年度末に比べ37,874千円（同4.5%）増加しました。これは主に固定負債のその他に含まれる長期未払金15,029千円の減少に対し、退職給付に係る負債33,045千円及び固定負債のその他に含まれる長期リース債務18,242千円が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は2,418,393千円となり、前連結会計年度末に比べ176,962千円（同7.9%）増加しました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は6,125,783千円となり、前連結会計年度末に比べ129,553千円（前連結会計年度末比2.2%）増加しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及び配当金の支払いにより利益剰余金が129,433千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は71.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の業績予想につきましては、2023年5月9日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,776,476	2,409,876
売掛金	619,321	1,069,207
商品	1,202,331	1,505,387
その他	475,492	435,639
流動資産合計	5,073,622	5,420,111
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,263,141	2,320,850
減価償却累計額	△1,299,575	△1,345,856
建物及び構築物(純額)	963,565	974,994
土地	686,694	686,694
その他	815,740	876,678
減価償却累計額	△503,326	△548,853
その他(純額)	312,413	327,825
有形固定資産合計	1,962,673	1,989,513
無形固定資産	12,317	10,117
投資その他の資産		
差入保証金	671,805	632,692
その他	517,241	491,741
投資その他の資産合計	1,189,047	1,124,433
固定資産合計	3,164,038	3,124,065
資産合計	8,237,660	8,544,176
負債の部		
流動負債		
買掛金	500,412	807,900
短期借入金	—	14,700
1年内返済予定の長期借入金	8,120	—
未払法人税等	149,630	34,563
賞与引当金	139,305	60,494
その他	610,357	629,254
流動負債合計	1,407,825	1,546,913
固定負債		
退職給付に係る負債	567,780	600,826
資産除去債務	98,118	98,017
その他	167,705	172,636
固定負債合計	833,605	871,480
負債合計	2,241,430	2,418,393
純資産の部		
株主資本		
資本金	653,084	653,084
資本剰余金	627,597	627,597
利益剰余金	4,715,746	4,845,180
自己株式	△117	△117
株主資本合計	5,996,311	6,125,744
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△81	38
その他の包括利益累計額合計	△81	38
純資産合計	5,996,229	6,125,783
負債純資産合計	8,237,660	8,544,176

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	8,215,467	8,485,588
売上原価	4,254,177	4,487,274
売上総利益	3,961,290	3,998,313
販売費及び一般管理費	3,557,177	3,643,512
営業利益	404,113	354,801
営業外収益		
受取利息及び配当金	7,104	6,540
受取手数料	6,426	6,926
受取協賛金等	16,127	22,155
受取保険金	2,047	1,137
その他	10,749	11,917
営業外収益合計	42,455	48,678
営業外費用		
支払利息	6,473	7,211
その他	2,533	1,391
営業外費用合計	9,006	8,603
経常利益	437,561	394,876
税金等調整前四半期純利益	437,561	394,876
法人税、住民税及び事業税	141,290	128,263
法人税等調整額	18,507	20,007
法人税等合計	159,798	148,270
四半期純利益	277,763	246,605
親会社株主に帰属する四半期純利益	277,763	246,605

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	277,763	246,605
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	103	119
その他の包括利益合計	103	119
四半期包括利益	277,866	246,725
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	277,866	246,725
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結財務 諸表計上額 (注) 2
	オートボックス 事業	飲食事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,693,565	521,901	8,215,467	—	8,215,467
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	7,693,565	521,901	8,215,467	—	8,215,467
セグメント利益又は損失 (△)	731,036	△57,692	673,344	△269,230	404,113

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△269,230千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結財務 諸表計上額 (注) 2
	オートボックス 事業	飲食事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,991,291	494,297	8,485,588	—	8,485,588
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	7,991,291	494,297	8,485,588	—	8,485,588
セグメント利益又は損失 (△)	685,594	△60,632	624,962	△270,161	354,801

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△270,161千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。